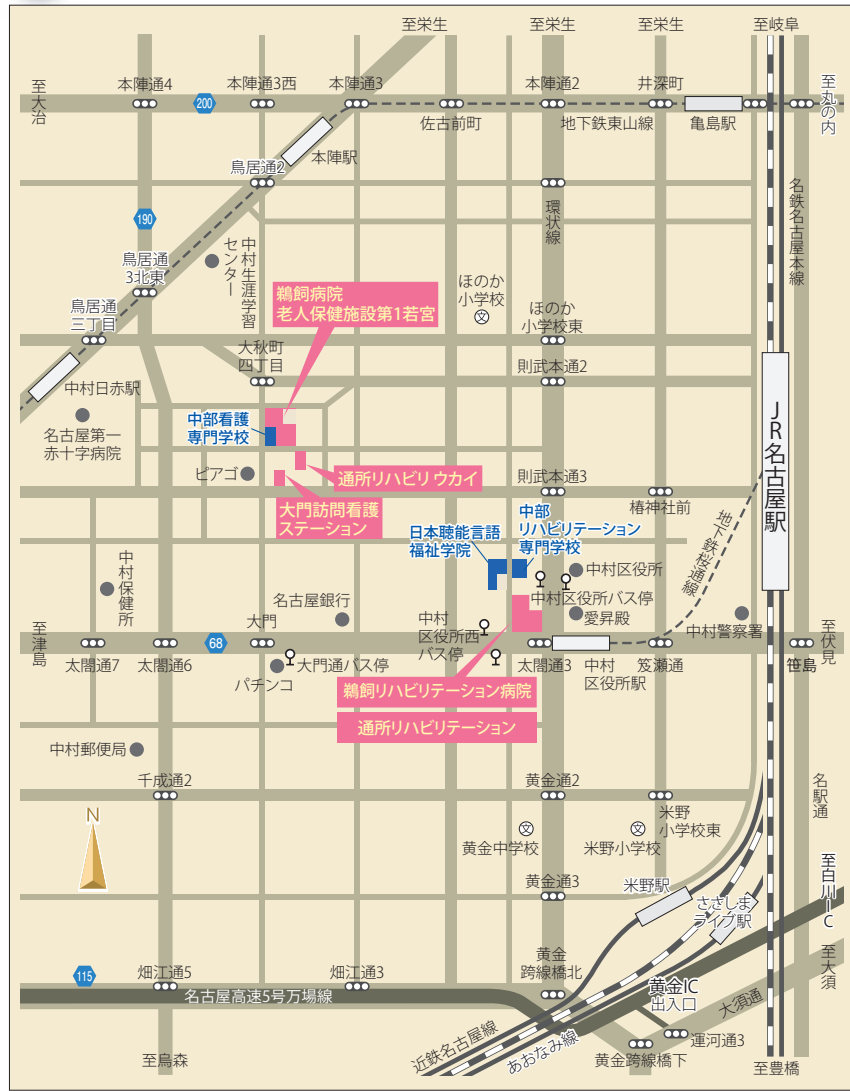


ご案内図



交通アクセスのご案内

- 地下鉄/桜通線「中村区役所」①出口より..... 徒歩約 1分
- 市バス・名鉄バス/「中村区役所」下車..... 徒歩約 1分
- JR名古屋駅太閤通口より..... 車で約 5分
- 名古屋高速道路「黄金」ICより北へ..... 車で約 5分



当院は、
医療機能評価
認定病院です。

医療法人 珪山会
鵜飼リハビリテーション病院

〒453-0811 名古屋市中村区太閤通4-1
TEL 052-461-3132 FAX 052-461-3231
Eメール mail@kzan.jp ホームページ <http://www.ukaireha.kzan.jp/>

時代のニーズに応える
珪山会グループ

鵜飼病院
TEL 052-461-3131
FAX 052-461-3136
名古屋市中村区寿町30

老人保健施設 第1若宮
TEL 052-461-3175
FAX 052-461-3136
名古屋市中村区寿町30

鵜飼リハビリテーション病院
TEL 052-461-3132
FAX 052-461-3231
名古屋市中村区太閤通4-1

通所リハビリテーション
TEL 052-461-3237
FAX 052-461-3238
名古屋市中村区太閤通4-1

通所リハビリウカイ
TEL 052-461-9195
FAX 052-461-3107
名古屋市中村区寿町6-1

大門訪問看護ステーション
TEL 052-471-2533
FAX 052-485-9702
名古屋市中村区大門町30

中部リハビリテーション専門学校
TEL 052-461-1677
FAX 052-471-2333
名古屋市中村区若宮町2-2
<http://www.chureha.kzan.jp/>

中部看護専門学校
TEL 052-461-3133
FAX 052-483-0873
名古屋市中村区寿町29
<http://kango.kzan.jp/>

日本聴能言語福祉学院
TEL 052-482-8788
FAX 052-471-8703
名古屋市中村区若宮町2-14
<http://ncg.kzan.jp/>

鵜飼リハビリテーション病院
ハートフル情報誌
ReHappy!
Vol.70

鵜飼リハビリテーション病院 ハートフル情報誌

ReHappy!

リハッピー

Vol.70

発行人/鵜飼泰光
発行/鵜飼リハビリテーション病院広報委員会
名古屋市中村区太閤通4-1
<http://www.ukaireha.kzan.jp/>
編集/鵜飼リハビリテーション病院広報委員会
編集グループ
編集協力/プロジェクトリンク事務局
発行/令和2年1月1日

〈特集〉

一人ひとりの思いを大切に、
認知症ケアの向上に取り組む。



医療法人 珪山会
鵜飼リハビリテーション病院

一人ひとりの思いを大切に、 認知症ケアの向上に取り組む。

高齢社会の進展に伴い、全国的に認知症を患う人が増加しており、
鶴飼リハビリテーション病院においても、主となる疾患に加え、
認知症を併せ持つ入院患者さんが増えている。
そうした患者さんに対し、どのようにアプローチしていくか。
同院では今年度、「認知症への対応力強化」を
病院全体の方針として定め、
職種を横断した取り組みを進めている。
今回のReHappy! は、その活動と成果について紹介したい。



4階病棟師長 高比良 梓

認知症に対する理解を 院内全体へ広げていく。

この日、鶴飼リハビリテーション病院の会議室では、
さまざまな職種が集まり、ロールプレイング研修が行わ
れていた。認知症を持つ患者役のスタッフが「あなたは
誰ですか。触らないで」と、怒ったような口調で言う。援
助役のスタッフは身を屈めて目線を合わせ、「私は看護

師の山田です。本日のお世話を担当させていただきます」と話しかける。そのやりとりを見ていた観察役のスタッフ
が、「目線を合わせたところが良かったと思います。もう少しゆっくり話すと、もっといいかもしれません」と、
意見を述べる。こうしたロールプレイングを、配役を変えながら、何度も行い、みんなで意見を出し合っていく。

これは、同院が今年度から始めた、認知症への対応力を強化する研修の一つ。全職種が対象で、看護師やセラピストはもちろん、医師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカーなど、誰でも参加できる。「これまでに8回開催しました。実際にスタッフが患者役と援助役の両方を演じることで、認知症の人の気持ちや立場を理解できるようになってきたと手応えを感じています」。そう話すのは、認知症対応能力向上ワーキンググループのリーダーである高比良 梓(4階病棟師長)だ。このワーキン



ググループは、鶴飼泰光院長が打ち出した年度方針に基づいて、今年度初頭に結成された。高比良師長を中心に、看護師3名、作業療法士2名、理学療法士1名の合計6名から構成され、ロールプレイング研修をはじめとした新しい取り組みに次々とトライしている。

「ワーキンググループで意見やアイデアを持ち寄り、いろいろな活動を進めています。私たちの目標は、職種にかかわらず、病院の誰もが、認知症患者さんの気持ちに寄り添って対応できるようになることです」と、高比良は話す。

看護師とセラピストがお互いに 異なる視点を持ち寄り。

同院ではこれまで、看護師とセラピストが別々に認知症対応の活動を進めており、それは現在も継続している。そうした取り組みを統合する形で結成されたのが、この認知症対応能力向上ワーキンググループだ。

では、多職種が集まることによって、具体的にどのようなメリットが生まれているのだろうか。作業療法士の友添志保(5階病棟ユニットリーダー)は次のように話す。「私たちセラピストにとって、看護師の方の観察力や視点はとても新鮮ですね。認知症患者さんへの接し方についても、新しくパーソン・センタード・ケアという理念が導入され、対応力の向上に繋がっていると思います」。同院では今年度より、パーソン・センタード・ケアに基づき、職員個々が認知症患者さんへの対応ができていくかどうか評価し、改

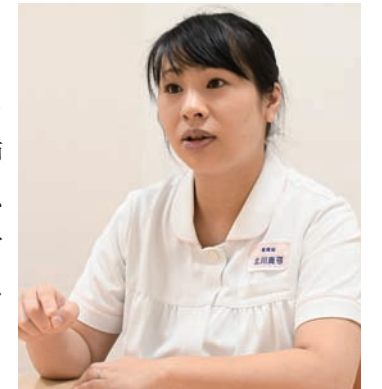


作業療法士 友添志保

善していくシステムを導入した(詳しくは5ページ参照)。「セラピストはどうしても、リハビリテーションをしなくては、という意識が強くなりがちですが、その前に患者さんの背景を知り、気持ちを考えることが大切です。パーソン・センタード・ケアは、その原点を教えてください(友添)」。

一方、看護師の北川真弓(4階病棟副主任)も、多職種ワーキンググループの活動を通じ、「セラピストの思考方法を知り、いい刺激を受けています」と言う。

「私たち看護師はどちらかというと、経験や感覚をベースにアプローチしがちです。でも、セラピストの皆さんは認知症の症状を数値化して、どこが良くなっているか客観的に評価していきます。その手法は、根拠に基づいた看護の実践に通じると思います」。たとえば、認知症患者さんの行動・心理症状(BPSD)の評価もその一つだろう。同院では、作業療法士が導入した評価スケールに基づき、看護師と作業療法士が協力して、認知症の症状をデータ化している。看護師とセラピストの双方が、それぞれの得意分野を持ち寄ることで、認知症対応力の強化に繋げているのだ。



看護師 北川真弓

興奮する認知症患者さんの 対応に右往左往していた頃。

認知症は、何かの病気によって脳の神経細胞が壊れるために起こる症状や状態をいう。認知症が進行すると、理解力や判断力が弱まり、生活に支障が出てくる。また、認知症は入院によって症状が進むことも指摘されている。その症状は、暴言や暴力、興奮、抑うつ、不眠、昼夜逆転、幻覚、妄想、せん妄、徘徊、もの取られ妄想など、さまざま。認知機能が衰え、急な行動を取りやすくなることから、転倒、転落などのリスクも高まる。

こうした患者さんの安全・安心な療養生活を支えるために、鶴飼リハビリテーション病院では以前から試行錯誤を続けてきた。「最初の頃は、患者さんに激しい症状が出ると、医師に相談して、睡眠剤や鎮静剤などを処方

してもらったことも多かったように思います。患者さんの症状は一旦治まりますが、それでは、根本的な解決にはなりませんよね。もっと良い方法があるのではと思いつつも、なぜそういった症状が出るのかわからず、どうすることもできませんでした。現場のスタッフは、興奮する患者さんの対応に苦慮し、かなり疲弊していたことも事実です」(高比良)。

そうした状態を打破するために、同院では看護師、セラピストがそれぞれ勉強会や外部の研修で学び、それを院内に広げることで、少しずつノウハウを蓄積してきたのだ。「現在は、認知症の症状が出たからといってすぐに薬を処方してもらうことはありません。症状に合わせてどの程度、どの薬を処方すべきかという基準を医師に作成してもらって、病院全体で運用しています。認知症患者さんへの薬の処方、最小限に抑えられていると思います」と、高比良は話す。



ができるようになりました」と話す。さらに高比良は、「患者さんだけではなく、スタッフ自身もパニックに陥ることなく、冷静でいられるようになった」と言う。「怒る人や、暴れる人がいても、〈これは一時的な興奮だから、適切に対応すればいずれ治まる〉と見通しを立てることができるようになりました。たとえば、暑がりの方なら扇風機を使うことで、体がかゆいのであれば軟膏を塗ることで、患者さんは落ち着いていきます。スタッフの冷静な対応が、患者さんの落ち着きを引き出すという良いサイクルが回り出したように感じていますね」。

最後に今後の目標について、高比良に聞いた。「認知症患者さんへの対応力を強化するために、パーソン・センタード・ケアを取り入れたことはとても良かったと思います。ただ、完全に実行できているかというと、まだまだ不十分な部分も見られるので、一つひとつ改善していきたいですね。また、法人の事業として、地域交流カフェ(※)を作りましたので、そういう取り組みを通じ、入院患者さんはもちろん、地域で暮らす認知症の方々もサポートできるようになれば素晴らしいと思います」。

※医療法人珪山会では、認知症患者さんやその家族はもちろん、地域の人々が気軽に交流できる場として、通所リハ ウカイを定期的にカフェとして開放している。



退院後も正しい食生活を続けられるようにアドバイス。

認知症対応能力向上ワーキンググループが動き出して、1年足らず。その成果は、現場でも感じられるようになったという。

「認知症患者さんの表情が、明らかに変わってきました。最近では、警戒心を見せる方が少なくなったように感じています」と、北川。その言葉に友添も頷き、「興奮している患者さんも減りましたね。認知症を患いながらも落ち着いてらっしゃるので、スムーズにリハビリテーション

For the Best Rehabilitation

Topic 1

全職種を対象にした、ロールプレイング研修や事例検討会。

認知症対応能力向上ワーキンググループでは、認知症を理解し、その対応力を身につけるために、全職種を対象にした研修に力を注いでいる。

その一つが、本特集の冒頭で紹介した「ロールプレイング研修」。スタッフが患者役・援助役・観察者役を演じることで、認知症への対応力の向上をめざしている。

もう一つは、「事例検討会」である。対応の難しい事例を取り上げ、認知症患者さんの言葉や行動の裏側にあ

る、本当の思いやニーズを探っている。「たとえば、患者さんが『家に帰りたい』と言われる場合。その方の背景がわかると、



〈この方はこの時間、いつも夕食を作っていたから帰りたいんだな〉とか、〈お父さんのことが心配で家



に帰りたいのか〉などと、気づくことがあります。患者さんの背景を考え、心の声に耳を傾けるノウハウをみんなで勉強しています」と、高比良師長は説明する。

さらに、認知症対応能力向上ワーキンググループでは今後、こうした事例を集計し、認知症ケアのフローチャートを作成する計画も持つ。症状に応じてどのような声かけ、対応、リスク管理をしていくかをわかりやすく表にまとめ、多職種で共有していこうとしている。

Topic 2

「パーソン・センタード・ケア」に基づく認知症対応を実践。

「パーソン・センタード・ケア(Person Centered Care: その人を中心としたケア)」とは、1990年代はじめに英国で提唱されたもので、認知症であってもその人の個性や人生を重んじ、尊厳を守るケアの理念である。

鶴飼リハビリテーション病院では今年度から、この理念に基づく「適切な対応チェック」のシステムを導入。看護師、セラピストはそれぞれの職種で2名1組のペアを組み、月に一度、チェックリストの項目ができているかどうか自己評価・他者評価して、できていないところの改善に努めている。たとえば、「話を聞きながら、相槌を打っているか」「子ども扱いをしていないか」「思いを受け止めているか」など、チェック項目は多岐にわたる。自己評価だけでなく、他者評価を加えることで、自分ではできているつもりでも、できていないことに気づける仕組みだ。

認知症対応能力向上ワーキンググループでは、このチェックリストの集計結果を見て、全体

的にできていない項目について検討。さらに、スタッフの啓発を促すポスターを作製し、目に留まる場所に掲示している。また、とくに援助が難しいケースでは、パーソン・センタード・ケアに基づく「ひもときシート」というツールを活用。現場のスタッフが、認知症患者さんの言葉や行動から、課題の解決に向けて考えられるように支援している。



Support Party!

珪山会グループからのお知らせ



鵜飼病院

地域に密着した病院として、患者さん・ご家族を支えます。

当院は、地域に密着した病院として近隣の病院や診療所と連携を取り、患者さんにとってより快適な入院診療・外来診療を提供できるよう努めています。急に体調が悪くなられた方や、救急車の受け入れにも対応しており、整形外科手術も行っています。

また、患者さん、ご家族の「自宅で生活を」という気持ちにお応えできるよう、リハビリテーションにも力を入れています。法人内外の居宅介護支援事業所や訪問看護ステーション等の介護保険サービス事業所と協力し、患者さんのご自宅での生活を支えます。



施設概要

リハビリテーションを中心に医療・福祉活動を展開しています。最先端設備と人に優しい環境を整え、患者さん一人ひとりを支えます。

診療科目：内科・神経内科・外科・消化器外科・整形外科・リハビリテーション科・放射線科

病床数：120床（一般病床30、地域包括ケア病床30、療養型病床60）

外来受付時間

月～金曜日 9:00～12:00 / 15:30～18:00

土曜日 9:00～12:00

休診日 日・祝

※在宅医療サービス、介護保険サービスも行っています。

鵜飼リハビリテーション病院

■通所リハビリテーション（1～2時間）

利用者さんの状態に合わせ、専門スタッフがリハビリや運動を実施します。



介護保険で行う通所リハビリテーション施設（デイケア）で、1時間30分の短時間型通所リハビリを提供しています。病院を退院した後、安心してご自宅での生活が送れるよう、専門スタッフ（理学療法士）が利用者さんの状態やニーズに合わせて、個別リハビリ（20～40分）や機械を使っでの運動（40～50分）を実施します。

また、平成24年から、要介護者の方に限りお宅への訪問を始めました。実際の生活現場で情報収集を行うことで、解決が必要な課題を明確にし、より充実したリハビリを提供できるよう、スタッフ一丸となりサポートしています。

施設概要

利用者さんの状態に合わせ、20～40分の個別訓練と1時間程度の自主訓練で体力や基本動作能力の維持・向上をはかります。

対象：要介護・要支援認定の方
ご利用日：月・木・火・金・水・土（祝祭日を含む）

ご利用時間：午前 9:00～10:30 / 10:30～12:00
午後 13:00～14:30 / 14:30～16:00

サービス内容

- 筋力増強訓練や関節運動など
- 食事・排泄・更衣・入浴など日常生活動作
- 住宅環境の整備
- ホームプログラムの指導 など

※食事・入浴・送迎はありません。

通所リハビリ ウカイ

■通所リハビリテーション（1～2時間）・（3～4時間）

病院でのリハビリと同等のリハビリの提供に努めています。

介護保険で行う通所リハビリテーション施設（デイケア）です。利用者さんの状態やニーズに合わせ、医師やリハビリ専門スタッフがサービスを提供します。理学療法士・作業療法士・言語聴覚士を配置し、病院でのリハビリ（医療保険）が終了となった場合でも同等のリハビリを提供できるよう努めています。

日常生活での動作獲得やコミュニケーション能力の向上等をめざし、身体機能や筋力の維持・向上がはかれるようプログラムを立案。個別リハビリ、機器での筋力強化やマッサージ、物理療法の低周波やホットパック等を行います。



施設概要

体力や基本動作能力の向上をはかりたい方を対象に、20～40分の個別訓練と1～3時間程度の自主訓練を行います。

対象：要介護・要支援認定の方
ご利用日：月～金曜日（祝祭日、年末年始を除く）

ご利用時間：午前 9:00～12:30
午後 13:30～17:00

サービス内容

- 3つのコースと利用者に応じた個別リハビリテーション
 - 健康状態の確認（メディカルチェック）など
- ※食事・入浴・送迎はありません。

老人保健施設 第1若宮

■通所リハビリテーション（6～8時間）

利用者さんの笑顔が職員の励みです。



第1若宮では、年間を通して、節分や夏祭りなど季節に合わせた行事のほか、お花見や遠足などの外出行事を実施しています。

行事では、機能訓練や認知症の進行予防の援助も取り入れながら、利用者さんが、ご自分の能力に合わせて楽しんで参加していただけるよう配慮しています。

利用者さんが行事で見せてくださる笑顔が、職員の励みになっています。

これからも、一人でも多くの利用者さんに、楽しんで参加していただけるような行事を企画していきます。

施設概要

介護を必要とする方を対象に、心身機能の維持・向上のためのリハビリを提供するとともに、入浴・食事・送迎サービス等も行います。

対象：中村区にお住まいの要介護認定の方
ご利用日：月～土曜日（祝祭日、年末年始を除く）

ご利用時間：9:50～16:10

サービス内容

- 理学療法士、作業療法士によるリハビリテーション
- 日常生活の援助（健康状態の確認、入浴・食事の介助等）
- 在宅生活における各種相談

大門訪問看護ステーション

短期間の利用も可能。退院後の不安を取り除きます。

「退院後すぐに体調が悪くならないだろうか」「自宅でどんな運動をすればいいのだろうか」「トイレやお風呂の介助がうまくできるだろうか」など、退院後の不安はどなたもお持ちだと思います。

当ステーションでは、退院前のリハビリ見学等を通して入院スタッフからの情報収集を実施しており、退院後、看護師やリハビリスタッフ（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）が週1～2回程度訪問して、ご本人の状態や環境に合わせた指導・援助をしています。退院後から生活が落ち着くまでの短期間利用も可能です。



施設概要

看護師、リハビリスタッフがご自宅に訪問し、利用者さんやご家族が安全・安心に暮らせるよう、在宅生活を支援します。

営業日時：月～金曜日 9:00～18:00（祝祭日、年末年始を除く）

サービス提供地域：中村区・西区・中川区

サービス内容

- 健康状態・病状観察
- 日常生活の支援
- 医療処置・カテーテル管理支援
- 在宅リハビリテーション
- 看護・介護・住宅改修・福祉用具の助言、相談 など

※ご利用にあたっては医師の指示書が必要です。ステーションにお問い合わせいただくか、ケアマネージャーにご相談ください。※看護師の24時間対応。